

オホヤマカハゲラとヒメオホヤマカハゲラ：

特にその若蟲に就いて

河 野 光 子

ON *PERLA GIBBA* KLAPÁLEK AND *P. SEMINIGRA*
KLAPÁLEK, WITH SPECIAL REFERENCE
TO THEIR NYMPHS.

By MITSUKO KOHNO.

筆者は従来 *Perla tinctipennis* MACLACHLAN オホクラカケカハゲラの若蟲として^{2)6)*} 取扱はれてゐたカハゲラの若蟲を、飼育調査した結果、*P. seminigra* KLAPÁLEK ヒメオホヤマカハゲラの若蟲であることを確めたので、これを“むし”³⁾ 誌上に發表しておいた。(第2圖参照)。然るにその *P. seminigra* KLAPÁLEK に該當する若蟲中には極めて大なるものもあること及び *P. gibba* KLAPÁLEK の成蟲は *P. seminigra* KLAPÁLEK の成蟲に極めて酷似し、雄の相異點を除けば(後述)、両者は殆んど大きさによつてのみ識別し得るに過ぎぬことより、*P. seminigra* とした若蟲に疑問を抱き、發表後更にこの種の飼育觀察を繼續した。この若蟲は他のカハゲラの若蟲よりも飼育し羽化せしめることが困難であるため、材料の蒐集が容易でなくこのために可成の年月を費したが、漸くこの若蟲は2種即ち *P. gibba* KLAPÁLEK と *P. seminigra* KLAPÁLEK とに分つべきことを明かになし得たので、こゝに報告する。

本文を草するに際し、*P. gibba* KLAPÁLEK (1936年7月中旬日光採集) 及び *P. seminigra* KLAPÁLEK (1937年5月下旬福島縣大川より若蟲を採集、羽化せしめたもの) の鑑定を賜つた岡本半次郎博士に深甚の謝意を表する。

* 2)6) 等は参考文献番號。

河野光子：オホヤマカハゲラとヒトオホヤマカハゲラ：特にその若蟲に就いて 209

I. *P. gibba* KLAPÁLEK 及び *P. seminigra* KLAPÁLEK

の採集地、採集月日及び羽化月日。

A. *P. gibba* KLAPÁLEK

採 集 地	採 集 月 日	羽 化 月 日	性
浅川(東京府下浅川町流通)	1937 年 4 月 27 日	1937 年 5 月 3 日	♀*
同 上	同 上	1937 年 5 月 23~27 日	♀
同 上	1938 年 5 月 27 日	1938 年 5 月 27 日	♂
同 上	1939 年 5 月 7 日	1939 年 5 月 7 日	♂
同 上	同 上	1939 年 5 月 13~14 日	♂
同 上	同 上	1939 年 5 月 22~23 日	♀
同 上	同 上	1939 年 5 月 23~24 日	2♂
同 上	同 上	1939 年 5 月 24 日	2♀

B. *P. seminigra* KLAPÁLEK

採 集 地	採 集 月 日	羽 化 月 日	性
大川(福島縣北會津郡) 蟹川村流通	1937 年 5 月 30 日	1937 年 6 月 1~2 日	♂
同 上	1937 年 5 月 31 日	1937 年 5 月 31 日	♀
同 上	同 上	1937 年 6 月 1 日	♀
同 上	同 上	1937 年 6 月 2~3 日	♂
大川(福島縣北會津郡) 神指村流通	1940 年 5 月 10 日	1940 年 5 月 10 日	♂
同 上	同 上	1940 年 5 月 11 日	♂
同 上	同 上	1940 年 5 月 12 日	♂
同 上	同 上	1940 年 5 月 15 日	2♂ 1♀
同 上	同 上	1940 年 5 月 16 日	♂
同 上	同 上	1940 年 5 月 17 日	♀

* 2) に於て *P. seminigra* KLAPÁLEK ♀ として發表。

II. *P. gibba* Klapálek と *P. seminigra* Klapálek の成蟲。

兩種の成蟲に就いては 1921 年岡本博士¹⁾が述べられかつその相異點を列擧されてゐる。即ち *P. seminigra* KLP. の項に於て

(1) ♂, ♀ とも, 體長及び翅長前種 (*P. gibba* KLP.) より遙かに短し。(體長 ♂ 20~25 mm, ♀ 25~28 mm, 前翅長 ♂ 22~28 mm, ♀ 28~32 mm)。

(2) ♂ の第 1 腹節より第 4 腹節に至る背板は黒褐乃至黑色なり。♀ の腹部は(先端を除き)黒褐なり。脛節は黒褐なり。

(3) ♂ の第 5 腹背板にある截片は, 前種同様 3 角形狀を呈するも, その尖端の上面に 1 瘤起あるを以て側面より之を見れば, 尖端叉狀を呈す。第 10 腹節にある叉狀の突起物の上杆は大なるも短く, 下杆は上杆に比して細きも遙かに長し。而して上杆はその背面凹陷し, 凹陷部恰も端艇形を呈す。

(4) ♀ の亞臀板は弦形を呈し, その後縁の中央凹陷せず。

と記述されてゐる。因みに *P. gibba* KLP. に就いて (1)~(4) に相當する特徴を記載中より拔擧すれば次の通りである。即ち

(1) 體長 ♂ 15~17 mm, ♀ 19 mm, 前翅長 ♂ 16~18 mm, ♀ 22 mm。

(2) 腹部黃褐, 尖端濃し。脚黒褐乃至黑色にして後腿節の裏面には平行せる細き 2 本の縦黃褐線を有するを普通とす。(該線の判然せざる個體あり)。

(3) ♂ の鞍狀を呈する第 5 腹背板の後縁は 3 角形狀に深く割截せられ, その截片 Abschnitt は 3 角形狀を呈し, 側面より之をみれば其尖端頗る尖る。第 10 腹節の突起物 Fortsatz は叉狀を呈し上杆は肥大にして牛角狀を呈し下杆より少しく長し。

(4) ♀ の亞臀垂 Subgenital platte は僅かに弦形を呈しその後縁の中央極めて僅かに但し稍廣く凹陷する。

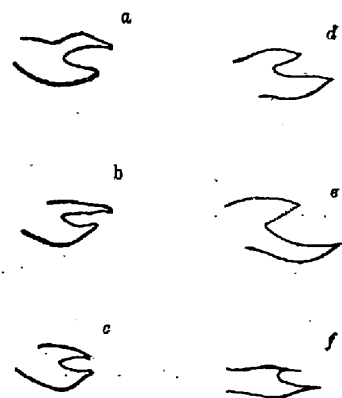
然るに筆者所有の兩種成蟲を検した結果, 次の様な事實が判明した。(1) に就いては *P. seminigra* KLP. の ♂ であつても體長 19 mm のものあり又 ♀ は體長 27 mm に及ぶものもあつて, かつ *P. gibba* KLP. 中にもその程度に小なるものもあり大さを以ては兩種を明瞭に區別することは困難である。(2) に就いては *P. seminigra* KLP. の ♂ の脛節にも黑色なるものもある。又 (3) の中, ♂ の第 10 腹節の叉狀突起物に就いては, *P. gibba* が第 1 圖 a, b, c, d, e 等の如き状態を示すこともあり必ずしも上杆が下杆より長いとはかぎらない。但し *P.*

seminigra KLP. の突起物は 大體岡本博士記載文の通りであるが、その外に 叉狀突起 とならずに 單一突起となるものが 極く稀にある。(4) に於ける 亞臀板中央凹陷の 缺除も *P. seminigra* KLP. のみに 限られるものではなく、*P. gibba* KLP. の ♀ に於ても 中央凹陷は 必らず存在するとは限らない。

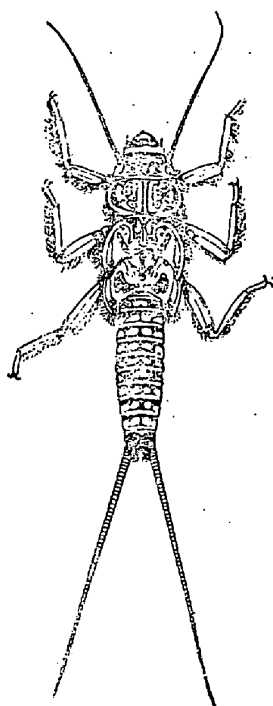
III. *P. gibba* KLP. と *P. seminigra*

KLP. の若蟲

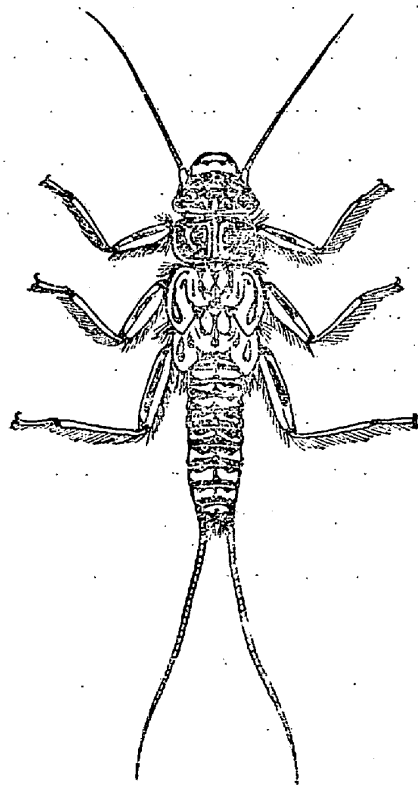
兩種の若蟲は色彩、形態(口器も含め)に於て同一然たるものであつて、少數の材料を以て



第1圖 ♂ の第10腹節叉狀突起。
a, b, c, d 及び e は *P. gibba*
KLP. f は *P. seminigra*
KLP.



第2圖 *Perlida gibba* KLAPÁLEK 若蟲。
(上野氏原圖 1929)



第3圖 *Perlida seminigra* KLAPÁLEK 若蟲。(著者原圖)

は、その區別を指摘することは困難であるが、羽化せる前述の成蟲によりそれら若蟲の所屬する種名を決定し、兩種の若蟲の區別點を漸く識別出來た。即ち第2圖は *P. gibba* KLP. の若蟲に該當するもので、*P. seminigrus* KLP. に相當するものは第3圖に掲げるところのものである。*P. gibba* KLP. の若蟲は (*tinctipennis* MACLACLAN の若蟲として) 上野博士⁹⁾ に依つて記載されてゐるが、*P. seminigrus* KLP. の若蟲は *P. gibba* KLP. に極めて酷似し、次の2つの差異點を除いては記載の必要は認められない。即ち

(1) 頭部複眼前方の狭い3横紋の中央紋は *P. seminigrus* KLP. に於ては棒狀形又は少しく彎曲するか、兩脇の2紋と連續する。*P. gibba* KLP. に於ては必ず浅いW字型を呈する。

(2) 腹部の模様は *P. seminigrus* KLP. に於ては各節の左右に2個の黄色横紋を具へる(個體に依り2紋は連續するときもある)が、*P. gibba* KLP. は第1圖の如く4紋を具へる。但し個體に依つては2個の紋を有する腹節の多い個體もある。(この腹節の模様は若い齡即ち A-III^{*} 以前に於ては明瞭でない)。

(3) *P. gibba* KLP. の♀の若蟲は非常に大なる點で(體長42 mm に達するものあり)區別はつくが、この種の♂の若蟲(體長23 mm 位)と *P. seminigrus* KLP. の♀の若蟲(體長28 mm 位)とはその雌雄を兩種共に第8腹節腹面の後縁中央に於ける小突起の有無に依り區別する便宜はあるものの、大きさに於ては識別し得ない。これに後種の♂の若蟲(體長20 mm 位)が加はれば、大きさに依る區別は益々困難となる。

以上述べた色彩も大きさも絶對的のものでないことは言を俟つ迄もなく、單に若蟲のみを以てしては兩種の明確な區別はなかなか困難である。以上觀察に用ひた若蟲は兩種併せて500頭を下らないが、兩種を採集した河川を挙げれば次の通りである。

(1) *P. gibba* KLP. の採集された河川。

淺川(東京府下淺川町流通)。多摩川(小河内流通)。荒川(埼玉縣秩父地方、諸々にて)。矢川(長野縣輕井澤流通)。湯瀧及び龍頭瀧(栃木縣日光)。五百川(福島縣安達郡高川村流通)。大川(福島縣南會津郡塔子流通及び北會津郡諸々にて)。湯川(福島縣若松市及び市外東山村流通)。その他[†]。

* 成蟲より3齡前。

† 他の人々に依る採集標本を、他の10以上の河川より見てゐる。

河野光子：オホヤマカハゲラとヒメオホヤマカハゲラ：特にその若蟲に就いて 213

(2) *P. seminigra* KLP. の採集された河川。

多摩川(東京府氷川村流通)。湯川(福島縣若松市及び市外東山村流通)。鬼怒川(栃木縣鬼怒川流通)。大川(福島縣北會津郡神指村その他諸々にて)。その他。

参 考 文 献

- 1) 伊藤秀五郎, 1938: ヒメオホヤマカハゲラ *Oyamia seminigra* OKAMOTO の生活史。生態學研究, Vol. 4, No. 2, pp. 126~130.
- 2) 川村多實二, 1932: 日本昆蟲圖鑑(北隆館), p. 2235.
- 3) KOHNO, M. 1937: On the nymphs of *Perla tinctipennis* MACLACHLAN and *P. seminigra* KLAPÁLEK. むし, Vol. 10, No. 2, p. 96~97.
- 4) OKAMOTO, H. 1921: Ueber die Drei Arten der Subgattung *Oyamia* (Plecoptera). Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., Vol. VIII, pp. 1~6.
- 5) 岡本半次郎, 1932: 日本昆蟲圖鑑(北隆館), p. 2018, p. 2019.
- 6) UENO, M. 1929: Studies on the Stoneflies of Japan. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ., (B), Vol. 4, No. 2, article 5.